

## ギニアグラス (B7-1) の採種栽培法の検討

福田誠実・上田允祥 (福岡県農業総合試験場)

Narumi FUKUDA and Mitsuyoshi UEDA : Cultivation for a Increased Yield of the Guinea Grass Seeds

ギニアグラスの中で、初期伸長が速く、採種性の高い B7-1 (GR490) について、さらに採種量を向上させるため、栽培密度の検討を行った。

## 1. 試験方法

畜産研究所内の花崗岩質残積土壌において、個体栽培 (1982年5月25日播) と条播栽培 (1983年6月14日播) を行った。個体栽培は A 区 (1本/m<sup>2</sup>)、B 区 (2本/m<sup>2</sup>)、C 区 (10本/m<sup>2</sup>) とし、条播栽培では、条間 (50cm, 75cm, 100cm) と播種量 (100g/10a, 200g/10a, 400g/10a) の要因配置とした。なお、供試種子は高温処理+ジベレリン処理を行い、発芽率は42.3%となった。10a 当たり施肥量は窒素14kg, 燐酸7kg, カリ14kgとした。

## 2. 試験結果および考察

1) 個体栽培 C区は生育初期から競合し、B区は出穂始ころから競合が起き草丈伸長を助長したが、A区では個体間競合はみられなかった(図、表を割愛)。

2) 条播栽培 条播栽培において条間と播種量の組合せ試験を実施した。第1図には50cm条播について、茎数と出穂数の推移を示したが、400g区と200g区は最高分けつ期が明瞭に現れ、100g区ではやや不明瞭であった。

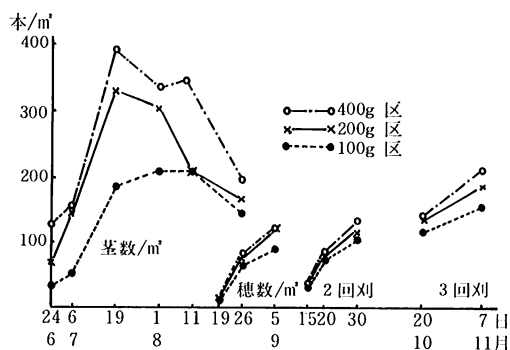
出穂始期には弱小分けつ期の枯死がみられ、播種量による茎数の差は著しく縮小した。

採取穂数、採種量を第1表に示した。50cm条播では400g

播種の方が穂数、精選重とも多いが、100cm条播では播種量の影響が小さくなった。これは、条間と個体間では競合の時期、および強度が異なるためであり、100cm条播の方が、個体間競合が強くとれたためと思われる。

分散分析の結果、播種条間と播種量の交互作用は有意ではなく、播種条間、播種量は、共に有意であった。

採種量を増すためには条間を狭くし、播種量を400g程度にすることが有利と思われる。



第1図 茎数と出穂数推移 (50cm条播について)

第1表 採取穂数と採種量

(本/m<sup>2</sup>, g/m<sup>2</sup>)

条間	播種量	月日			9月8日			9月30日			11月11日			合計		
		項目	穂数	粗選重	精選重	穂数	粗選重	精選重	穂数	粗選重	精選重	穂数	粗選重	精選重		
50 cm	100g/10a		75	26.2	14.4	63	18.6	7.1	106	12.0	2.7	244	56.8	24.2		
	200		94	35.6	17.6	98	22.4	6.5	118	13.7	2.8	310	71.7	26.9		
	400		109	44.0	21.5	80	22.4	5.8	126	17.0	3.2	315	83.4	30.5		
75 cm	100		73	29.3	15.7	67	20.0	7.1	101	12.3	3.0	241	61.6	25.8		
	200		93	32.8	15.6	72	18.2	5.1	133	15.1	3.7	298	66.1	24.4		
	400		96	30.2	16.9	68	19.0	5.0	102	10.7	1.6	266	59.9	23.5		
100 cm	100		77	34.6	16.8	66	19.3	6.0	88	6.8	1.1	231	60.7	23.9		
	200		101	31.3	15.9	76	19.4	4.3	85	9.2	1.3	262	59.9	21.5		
	400		89	32.5	15.1	75	17.3	3.4	88	8.8	1.6	252	58.6	20.1		